

VisIR-765 "STED" & VisUV 繰返し周波数可変 高出力ピコ秒レーザーモジュール

(株)日本レーザー(本社:東京都新宿区西早稲田 2-14-1、電話 03-5285-0861、社長:近藤宣之)が日本総代理店を務める独国 PicoQuant(ピコクアント <http://www.picoquant.com/>)は、Laser World of PHOTONICS 2015 (2015 年 6 月 22-25 日 独国ミュンヘンにて開催)で、新しいピコ秒パルスレーザー VisIR-765"STED"及び VisUV を発表した。日本レーザーでは 7 月 1 日より、初年度 10 台を目標に販売を開始している。日本国内での概算価格(税抜き)は 680 万円から。



VisIR-765"STED"は今年 3 月にすでに発売されているが、出力はこれまでの 500mW から 1.5W(波長 766nm、パルス幅 500ps 時)に増強されている。パルス幅は 70ps までの短パルス幅も提供可能である。

今回新たにラインナップされた VisUV は、出力波長を 266, 355, 532 nm から 1 波長または 2 波長指定できる。平均出力パワーは 2~500mW で、波長や出力ビーム数によって異なる。最小パルス幅は 70ps である。

VisUV は蛍光寿命計測向けに、VisIR-765"STED"は STED 顕微鏡の失活用光源として開発されている。これらのパルス幅と良好な円形ビームは、光退色を抑えたサンプル照射に最適であり、STED 用のドーナツビームなどビーム成形も正確に行える。いずれのレーザーも繰返し周波数を、内部周波数 31.25kHz~80MHz から選択、または 1Hz~80MHz の外部周波数トリガにより制御できる。ビーム品質が非常に良好で、 M^2 約 1.02 のほぼ完全な円形ガウス型プロファイルをもつ。

VisIR-765"STED"及び VisUV には、マスターオシレータファイバアンプ(MOPA)による周波数変換技術が採用されている。マスターオシレータが赤外のピコ秒パルス光(VisIR-765"STED"では 1530nm、VisUV では 1064nm)を発振。繰返し周波数は PicoQuant 社の実績あるゲインスイッチング技術により可変である。このシード光から第 2/3/4 高調波に変換し出力する。

主な仕様

	VisIR-765 "STED"	VisUV
中心波長	765 nm \pm 3 nm	266 nm \pm 3 nm, 355 nm \pm 3 nm, 532 nm \pm 2 nm
最大出力パワー	> 1.5 W at 765 nm	> 2 mW at 266 nm, > 3 mW at 355 nm, > 300 mW at 532 nm
繰返し周波数	Single shot 80 MHz	Single shot 80 MHz
パルス幅	< 70 ps to 500 ps	< 70 ps

以上

株式会社 日本レーザー URL <http://www.japanlaser.co.jp/>

本リリース製品の営業担当者 大阪支店 西本 俊行

〒533-0033 大阪市東淀川区東中島 1-20-12 ユニゾン新大阪 2 階

電話 06-6323-7286 FAX 06-6323-7283 E-Mail: nishimoto@japanlaser.co.jp

本リリースについてのお問合せ 販促業務部 山田 昭正/橋本 和世

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-14-1

電話 03-5285-0861 FAX 03-5285-0860 E-Mail: yamada@japanlaser.co.jp